

共和町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米の割合が過半を超えており、水稻を中心に一般畑作物や果菜類など、多様な農産物を算出している。特にすいか・メロン・スイートコーンなどの果菜類の導入が定着して以降は、稲作中心の経営形態から複合型の経営へと展開してきている。

主食用米の需要が減少し消費者の食に対するニーズが多様化する中で、このような経営展開を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、農家戸数の減少や農業従事者の高齢化など厳しい状況におかれている。こうした中、水稻作付面積の維持が課題となっており、担い手への農地の集積を支援するため、農地中管理機構の事業の活用を図らなければならない。

そのほか、水田の活用作物として麦・大豆など土地利用型作物の作付けにあたっては、安定生産に向け、輪作を基本とした団地化や地力増進作物の積極的導入などにより、収量・品質を向上させながら「本作」として定着させ、果菜類の作付と合わせた収益性の高い水田農業経営を確立すると共に、水田の有効活用により食料自給力・自給率の向上に資することが課題となっている。

2 作物ごとの取組方針

町内の約2,600ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底によって良質・良食味米の安定稲作地帯としての地位を堅持する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。また、中食・外食のニーズに対応した業務用米の生産と安定取引の推進を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転作作物の推進する。また、飼料用米の生産拡大にあたっては、多収性専用品種の促進及び団地化の推進を図り、5年後においても現行の作付面積を維持する。

イ 加工用米

産地交付金を活用しつつ、実需者（米の使用者や消費者）へのニーズに対応した米の生産・供給体制の構築を図るため、生産数量目標の削減分については、加工用米での取り組みを推進し、固定需要の確保・拡大を図り生産性を向上させることで、水稻作付面積の維持・拡大に向けた取り組みを行う。

ウ 備蓄米

産地交付金を活用しつつ、加工用米の需要を上回る部分については、備蓄米で最大限に取り組むこととし、水田機能の維持や生産力の維持・向上を図ります。

(3) 麦、大豆、飼料作物

品質や生産性の向上、合理的な土地利用・作付体系の再構築を図る。また、適正な機械化作業単位を確保できる団地化及び生産組織の育成を図る。麦については、民間流通に対応し、実需者のニーズに即した高品質麦の安定生産を推進する。大豆については、機械化収穫体系と多収技術を確立し、需要動向に即した計画的生産を図る。飼料作物については、転作作物の作付けの困難なほ場条件下において作付を行い、持続可能な農業を推進する。

(4) そば、なたね

地域の実需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

(5) 野菜

地域全体の生産性・品質の向上及び生産基盤の強化を図るため、効率的かつ安定的な経営を目指す担い手へ「馬鈴しょ」、「アスパラ」、「ブロッコリー」、「苺」、「メロン」、「西瓜」、「スイートコーン」、「トマト」、「南瓜」といった高い収益性と機能性を持つ果菜類を組み合わせた複合化を推進し、収益性の高い安定した水田農業経営の確立を図る。

(6) てん菜

産地交付金を活用により、湿害対策を実施し、収量・品質の安定向上を図りながら現行の栽培面積を維持する。

(7) 不作付地の解消

現行の不作付地（約177ha）について、今後5年間で約1割（17ha）を飼料用米の作付により解消を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成25年度の作付面積 (ha)	平成27年度の作付予定面積 (ha)	平成28年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	1478.7	1383.7	1329.7
飼料用米	3.8	14.3	30.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
WCS用稲	0.0	0.0	0.0
加工用米	34.0	63.0	65.0
備蓄米	69.3	128.8	128.8
麦	411.4	461.7	413.6
大豆	117.8	117.8	118.4
飼料作物	50.2	50.2	50.2
そば	384.0	384.0	384.0
なたね	0.0	0.0	0.0
その他地域振興作物	1162.5	1071.4	1093.4
野菜	902.2	811.1	833.0
・西瓜	141.6	118.0	118.0
・メロン	278.7	260.0	281.9
・スイートコーン	121.0	92.5	92.5
・馬鈴しょ	300.9	280.0	280.0
・南瓜	25.8	23.6	23.6
・アスパラ	4.5	5.0	5.0
・ブロッコリー	7.4	9.8	9.8
・苺	0.3	0.2	0.2
・トマト	1.2	1.2	1.2
・その他野菜	20.8	20.8	20.8
てん菜	22.0	22.0	22.0
小豆	33.5	33.5	33.5
地力増進	204.8	204.8	204.8

4 平成28年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成25年度 (現状値)	平成27年度 (予定)	平成28年度 (目標値)
1	西瓜	担い手への農地集積（水田分）	ア	実施面積	28 ha	20 ha	28 ha
1	メロン	担い手への農地集積（水田分）	ア	実施面積	109 ha	98 ha	112 ha
1	スイートコーン	担い手への農地集積（水田分）	ア	実施面積	66 ha	48 ha	66 ha
1	馬鈴しょ	担い手への農地集積（水田分）	ア	実施面積	99 ha	65 ha	99 ha
1	南瓜	担い手への農地集積（水田分）	ア	実施面積	17 ha	11 ha	17 ha
1	アスパラ	担い手への農地集積（水田分）	ア	実施面積	1 ha	1 ha	1 ha
1	ブロッコリー	担い手への農地集積（水田分）	ア	実施面積	4 ha	4 ha	4 ha

1	苺	担い手への農地集積(水田分)	ア	実施面積	1 ha	1 ha	1 ha
1	トマト	担い手への農地集積(水田分)	ア	実施面積	1 ha	1 ha	1 ha
2	麦	担い手への農地集積(水田分)	ア	実施面積	213 ha	228 ha	230 ha
2	大豆	担い手への農地集積(水田分)	ア	実施面積	57 ha	54 ha	57 ha
3	加工用米	生産性向上と生産調整促進(水田分)	ア	実施面積	34ha	63ha	65 ha

※「分類」欄については、実施要綱別紙16の2(5)のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。

(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか1つ記入してください。)

ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組

イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組

ウ 地域特産品など、ニーズの高い生産の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり